

令和4年度 大阪府立高槻北高等学校 第1回学校運営協議会 議事録

校名	府立高槻北高等学校
校長名	青竹 二郎

開催日時	令和4年7月8日(金)
開催場所	府立高槻北高等学校 2階 会議室
出席者(委員)	米津俊司会長、本村康哲副会長、丹家 敬委員、栞原 綾委員、柏原泰和委員、重村秀則委員
出席者(学校)	青竹二郎(校長)、伊藤倫隆(教頭)、山地謙一郎(事務長)、上田千歳(首席)、松本康子(首席)、安田正彦(総合調整部長)、藤塚雅弘(記録)
傍聴者	2名 和田光司(大阪教育大学大学院連合教職実践研究科1年) 阿部寛人(大阪教育大学大学院連合教職実践研究科1年)
協議資料	冊子資料 令和4年度 第1回学校運営協議会次第 委員名簿ならびに本校出席者一覧 配席図 資料編 1 令和4年度学校経営計画及び学校評価 2 令和4年度教志入門日程 3 令和4年度第1回授業アンケート質問用紙 4 令和4年度第1回学校教育自己診断質問用紙 5 2022年度入試(43期生と既卒生)の入試合格状況 6 大阪府立高槻北高等学校 学校運営協議会 実施要項 7 学校運営協議会に関する各種様式
備考	

議題等(次第順)

- 1 開会宣言(教頭)
- 2 開会挨拶(校長)
- 3 本校の現状と課題
令和4年度学校経営計画(案)について
令和4年度第1回学校教育自己診断について
令和4年度第1回授業評価アンケートについて
- 4 質疑応答ならびに協議
- 5 閉会挨拶(校長)
- 6 閉会宣言(教頭)

協議内容・承認事項等(意見の概要)

学校運営協議会の会長・副会長の任期満了に伴い、会長に米津俊司委員、副会長に本村康哲委員を選出した。また、コロナ感染拡大防止の観点から本日の協議会は1時間程度とすること申し合わせた。教頭からの開催宣言に続き、校長から令和4年度学校経営計画及び学校評価(案)についての資料に基づき説明があり、質疑応答がなされた。

(委員)

教志コースについて

大阪府内の大学に進学する受験者数が年々減少傾向にあることから、国立大学をめざす生徒のためにも高槻北高校の教志コースを各大学に広く認めていただくため大学との入試に関する協議の場を設けるべきではないか。また、教志コース設置から10年目を迎えるが、何人の卒業生が教員になっているのかを実績して示していく必要である。また、教志入門の講義の担当している講師について、新たに探すことになる場合には教志コースの趣旨を理解している学校運営協議会委員の先生方に依頼してはどうか。

(委員)

授業以外の学習時間について

生徒の基礎学力を担保することが重要な視点であり、生徒自身の夢を実現するためにも基礎学力の向上が必要であることから、授業時間以外の学習時間を増やすには宿題がポイントになると思う。授業を受講しただけでは不十分であり、自宅学習を増やすことが基礎学力の向上につながる。基礎学力の向上のためにも「宿題」を出し、予習・復習が進むように指導すべきではないか。

(高校)

大学との入試に関する協議の場について

大学入学共通テストにおける大阪教育大学との打ち合わせに参加し特別選抜に係る合格基準の緩和を申し入れしたが、大学として決定している事項である旨の回答であった。今後は大学コンソーシアム等で話し合いの場を設けるよう努めたい。

授業以外の学習時間について

自宅学習時間については、校長からのアドバイスとして各教科の先生方に小テストの実施をお願いしている。小テストの実施についての事前予告を行うことにより、生徒自身の小テストに向けた自宅学習時間の増加に繋がっている。先生方の評価育成の自己申告書においての共同目標として、「小テストの実施」を明記されている先生方が増えてきており、定着し回数が増えているように感じている。また、一人一台の端末(クロームブック)を活用し、多くの教員が課題及び宿題を出している。

(委員)

3年生全体の受験傾向として無難な大学の受験を選択していように見受けられる。しかし、可能性があればチャレンジしてほしい。

(委員)

家庭内の事になるが、学校から貸与をうけている端末の活用方法について、府立高校に通っている子供と私立高校に通っている子供を比較してみると、活用頻度に相当の差があるように思える。私立高校では先生と生徒との双方向の活用があり、私立高校に通っている子供の方がはるか端末を活用されているように思う。

(高校)

端末は府立高校では基本的には家庭で活用することを目的としている。設定されているソフトは自由に編集でき、あらゆる場面を想定しており休校及び学校閉鎖等のコロナ対応もその一つとして考えている。今後は私学での端末の活用方法を参考にし本校でも取り入れていきたい。

(委員)

現在小中校では不登校が問題になっている。学校教育自己診断(生徒用)の「学校に行くのが楽しい」の項目が年度ごとに達成率が上がっており、本年度は是非に目標達成に向け学校生活の取り組みに期待したい。地元の小中学校への授業参観については教員のあらゆる年齢層に呼びかけていただき、「異校種を見る」ことを目的として、小中高が近い校区として連携を強めていきたい。

(委員)

文部科学省が推進するキャリア教育の面においては、本校に教志コースの実習生を受け入れて思うことは、教志コースのプログラムをとおしてキャリア教育の目標項目の「いまの自分を振り返ってどうか」、「将来に向けてはどうか」等を教志コースで実施しており、本当に特色ある取り組みの教育であることを実感している。

小中学校への授業参観については是非実施してほしい。

現在の小学校でのタブレット使った授業が様変わりしていることを見ていただき、ICT機器を活用した教育を受けた小学生が中学に進み高校へ進学していく。この過程での教材研究がさらに発展していくことになる。

(委員)

生徒が教師になりたい気持ちを育てることが教志コースの目的ではないか思っている。

教師は素晴らしい仕事であることを教志コースのなかで教えていってほしい。そのために運営協議会委員の現役の先生方に講師を担当してほしい。

3年になり進学先を選ぶ段階で、ハードルのワンランク下の大学を選択し受験している傾向がある。入学後はその大学に安住してしまう傾向がみられる。そのことに対し、教師側も進路目標に対し満足することがないようにしてほしい。

(委員)

長年にわたり生徒と先生の交流を見ているが、先生は生徒にとっては第二の故郷の父母であるように思う。

学校生活の3年間は大変なことの連続かもしれないが、教師とはこんなに素晴らしい仕事であることを生徒に思いとして伝えていってほしい。

校長から様々な意見に対し謝辞があり、教頭から閉会宣言がなされ閉会した。

次回の会議日程

日時	令和4年11月中・下旬に開催予定
会場	府立高槻北高等学校 2階 会議室